

うたごよみ

曾於文藝

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口 淳民氏

俳句

末吉俳句会

高千穂をさびしみ帰燕高く飛ぶ

泰代

ゆすりては香りをすすり茗荷汁

泊 康

蜻蛉湧く霏の晴れ行く遠峰かな

本浦 玲子

大隅俳句会

知恵の輪や集ひ和める敬老日

岩重 みどり

倒伏の田に蜻蛉の高きかな

大川 満

軽トラの視界良好稲穂波

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

穂を掲げ勝利宣言なせる草
大き顔して我に纏はる

泊 康

大隅短歌会

周辺を木に囲まれて住む家は
冬は寒いが夏は涼しい

入来 レイ子

秋祭りにベトナム人らの踊りは
優雅な舞に見とれておりぬ

渡辺 哲男

もう四年今年も届く花あまた
盆の盛りに逝きし娘に

鮫島 由美子

財部短歌会

二学期へ子等がかけ行く通学路
見送るかのごと彼岸花咲く

永岡 冴子

子等都会一人になりてもわが家よし
稲の波中月見酒くむ

橋口 貞男

物騒な世の中なれば出掛けには
鍵の懸念と火の用心を

川俣 若

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

八十爺 多忙もせんが
金も無し 田代 勝泉

農作業ち 毎日大忙
疲れ倒けつ 浜田 一好

暖り婆様 多忙せしけで
日が暮れつ 桐野 奈世

昼や多忙 夜な晩酌め
尚多忙 古川 一幹

大隅薩摩狂句会

年の暮 どもこもならん
借金の仕事 山田 竜生

新米をば 農業せん衆どが
先き食つ 津留 群志

歯痒い事 惚けつみたや
惚けた言つ 小倉 りんりん

節約ち 習てん直き
元て戻つ 福元 多喜子